

きゅうりの担い手の育成

■背景とねらい

当管内は、比較的温暖な気候を活かした果菜類の生産が盛んである。中でもきゅうりは主力品目として、新規就農者の多くが経営の柱として位置付けている。しかし、既存のきゅうり農家の高齢化等により、栽培面積は減少傾向にある。

そのため今年度はきゅうり栽培を開始して5年以内の新規就農者を対象とし、定期的な巡回や研修会・情報交換会の開催、技術情報の提供を行い、きゅうりの担い手への支援を行った。

■本年度の取組と成果

1 重点対象者への巡回

きゅうり栽培を始めて5年目以内の栽培者から7名を選定し、4月から10月まで、月に1回以上巡回指導した。4月には課題と目標を設定し、課題解決と目標達成に向けて取り組んだ。

重点対象者への支援により、7名のうち5名は実績単収が目標単収を上回る結果となった。

2 南信州きゅうり青空教室の開催

第一回は「収穫最盛期の栽培管理と病害虫診断のポイント」をテーマとし、6月30日に生産者のほ場を借りて現地で開催した。参加した18名の新規栽培者からは、ほ場で栽培の様子を確認しながらの専門技術員等の説明は好評であった。



第一回きゅうり青空教室の様子

第二回は「土づくりと排水対策」をテーマとし、令和4年3月11日にオンラインで開催した。参加者は7名で、専門技術員による講義と土壌断面調査及び透水性調査の方法について情報提供を行った。参加者からは活発な質疑がなされ、近年の天

候不順から土づくりや排水対策への関心が高かった。

また、研修会終了後には参加者同士で意見交換を行う場面が見られ、生産者間の交流が図られた。

3 きゅうり新規栽培者情報交換会の開催

今年度のきゅうりの作柄を振り返り、次年度へ向けた課題や目標を明確にすることを目的に、11月26日に開催した。14名が参加し、今年度の栽培反省や作業効率化の検討、JA等関係機関からの情報提供を行った。また、参加者からは今年度の栽培の良かった点と課題、次年度の目標を発表してもらい、同じ悩みを抱える参加者同士での情報を共有するよい契機となった。



きゅうり新規栽培者情報交換会の様子

4 技術情報の提供

きゅうり栽培管理、病害虫防除、施肥、気象経過、価格動向をまとめた「きゅうりニュース」を4月から10月まで毎月発刊し、重点対象者に配付、技術指導資料とした。

重点対象者からは分かりやすいと好評であり、JA技術員は技術資料として活用している。

■今後の課題と対応

昨年度に引き続き、今年度もきゅうり栽培にとって気象条件が厳しく、8月の長雨による排水不良や、病害虫の発生で栽培に苦戦した新規就農者が多かった。重点対象者全員が収量目標を達成できるように、今後も引き続き関係機関と連携し、巡回や研修会の開催、情報発信等、継続した支援を行っていく。

(地域第二係：天野 瑠佳)